

地域社会との緊密な連携を築こう

— 子どもと保護者と地域のふれ合い活動 —

豊橋市立福岡小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

福岡小学校は、豊橋市のほぼ中央に位置し、周囲は小中学校をはじめ保育園・幼稚園、高校や大学、特別支援学校がある文教地区となっている。校区の大部分は住宅地で、新旧住民が混在している。校区内に国道や県道が通り、交通量が多い。ショッピングセンター・飲食店など商業施設も多くある。

全校児童は627名、教職員40名が在籍し、通常学級19学級、特別支援学級2学級の大規模校である。まもなく開校150年を迎え、教育目標「明るく元気な、活力のある福岡の子」のもと、その実現に向けて日々教育活動を実践している。P T Aや各種団体の活動が活発で、学校教育に協力的であり、自主的な取り組みが行われている。

2 研究のねらい

本年度30回目を迎える「福岡ふれあいフェスティバル」を軸として、年間を通してP T Aや学校、各種団体が協力して行事や活動を実施し、子どもたちとふれ合いを深め、地域で子どもを育てるという意識を高める。

3 研究の仮説

P T A各委員・部員組織を活かし、地域と子ども、保護者がふれ合う行事をもつことで、地域と学校の連携が構築でき、子どもの健やかな育成に寄与できるだろう。

4 研究の方法

P T A各部・委員会が中心となって計画・立案する行事と各種団体が主体となりP T Aが協力する行事を通年で弾力的に実施することで、より多くの参加者を募り、P T A、地域、学校が常に連携を図りながら子どもとのふれ合いを深める。

5 研究の実践

(1) 登校指導・あいさつ運動

本校では、あいさつ運動を年間3回、P T Aと青少年健全育成会が合同で実施している。年度当初の5月のあいさつ運動は、P T A生活指導部が主体となり、通学班の班長と1年生の保護者が、子どもと一緒に集合場所から学校まで歩く登校指導も兼ねている。親子で通学路の危険箇所も点検してアンケートを取り、校区安全マップに反映するなど子どもの安全の確保に努めている。



2、3回目のあいさつ運動は青少年健全育成会が中心になって計画し、P T Aが協力して校区

の各所に立ち、子どもの登校の安全を見守りながら挨拶や声かけをして交流している。

(2) 福岡ふれあいフェスティバル



本行事はPTAが主催し、各種団体が協力しているPTA行事の一大イベントである。PTA各部や委員会が模擬店やゲームコーナーを担当し、自治会をはじめ各種団体も様々な催し物を企画・運営している。また、防災倉庫の公開、水消火器による火消し体験など校区民への地域防災意識の啓発も併せて実施している。第30回を迎えた本年度は、野外に大きな舞台を設置し、大道芸人によるショーや教員や児童によるエンタメショー、高等

学校の和太鼓部を招いて本校の和太鼓部とのコラボ企画など様々なイベントを実施しフェスティバルを盛り上げた。子どもを中心として校区が一体となって楽しみ、ふれ合う場となっている。

(3) 七夕会

本行事は、校区保護司会が主催している「社会を明るくする運動」の一つで、長きにわたって行われている本校の伝統行事でもある。PTAはもちろん、各種団体がフェスティバル同様に協力している。会の数日前から、おやじの会メンバーが約100本もの竹を取りに行き、それを更生保護女性部や民生委員、PTAが児童分に切り分けたり、七夕飾りを作ったりして準備している。子どもは、七夕集会の司会や運営を担当し地域の方々やPTA委員と一緒に七夕飾りを完成させる。できた竹は子どもが持ち帰ったり、地域の協賛店や公共施設に飾らせていただいたりしている。



6 成果と今後の課題

(1) 成果

本年度の目玉である「福岡ふれあいフェスティバル」では、PTAや各種団体の協力により多くの子ども・保護者・地域の方々が参加し楽しむことができた。どの行事も各種団体の方々にとっては、自身のもつ知識や技術を生かすことができたり、生きがいになったりしている。主体となる団体が代わりながら、年間を通して途切れることなくPTAや地域住民が子どもとのふれ合い活動を実施することで、学校を核として地域のつながりが生まれ、地域ぐるみで子どもを育てるという体制を整えることができた。

(2) 課題

今後は、地域の要望やPTAの役員・委員の意見を取り入れながら、現在の行事の良さを残しつつ、マンネリ化しないよう活動を見直す必要がある。人員確保に努力し、内容を充実させながら、さら子どもとのふれ合いを深めるようPTA活動を継続していきたい。